

# 世界が 懸念していること

2024年5月



GAME CHANGERS

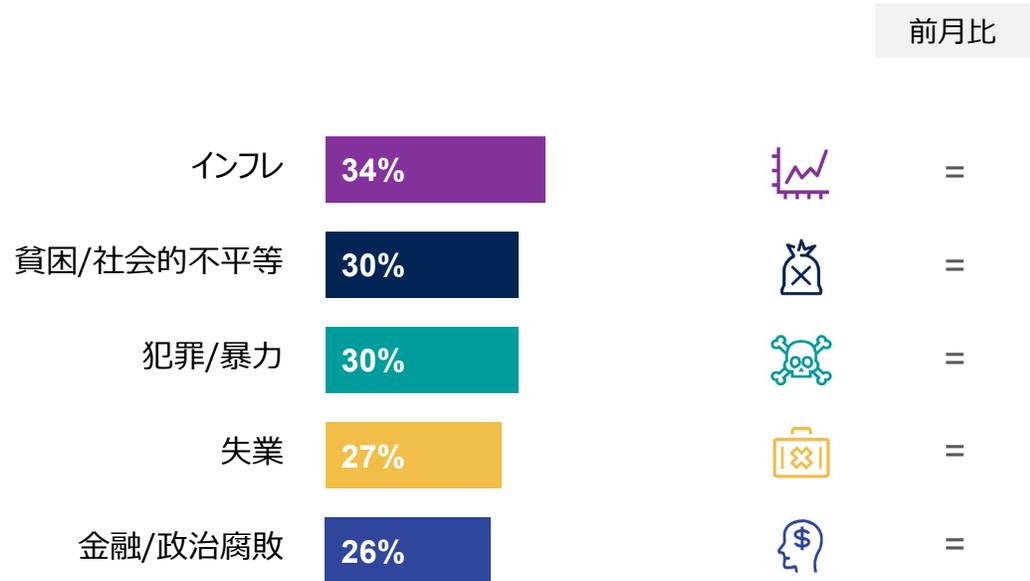




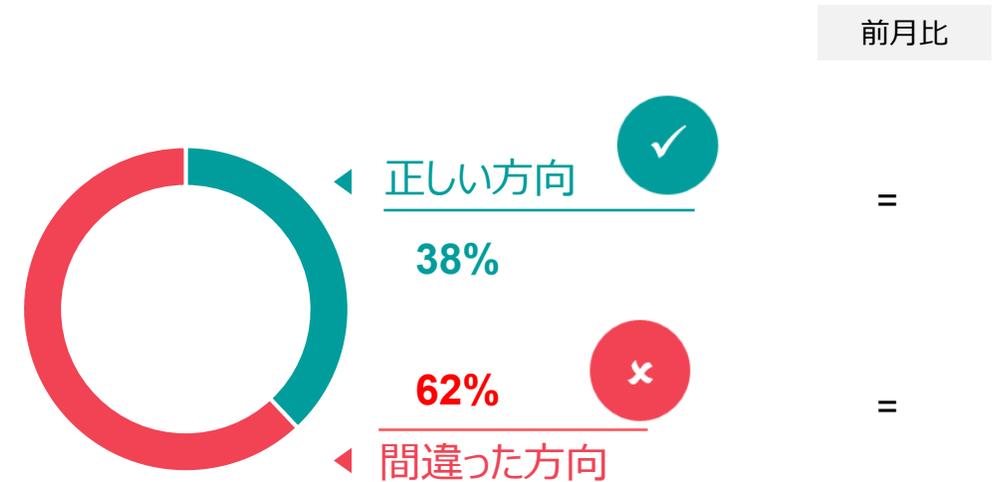
# 世界が懸念していること 2024年5月

インフレは、26か月連続で当社の「世界が懸念していること」調査で最大の懸念事項となっており、3人に1人（34%）がこれを懸念問題として選択しています。3人に1人（30%）は貧困/不平等と犯罪/暴力を懸念事項と見ており、4人に1人は失業（27%）と金融/政治腐敗（26%）を選んでいきます。5人に2人（38%）は、自国が正しい方向に向かっていると考えており、これは4月と同じスコアです。

**Q** 次のうち、自国で最も懸念されている3つは何ですか？



**Q** 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？



ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル24,686人。2024年4月15日から2024年5月3日に調査。  
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 主な調査結果

## 1 インフレ懸念は2年ぶりの低水準

インフレに対する世界的な懸念は引き続き3分の1程度（34%）で、これは2022年4月にインフレが注目され、当社の懸念事項リストのトップに躍り出て以来、最低の水準です。これは26か月連続で最大の懸念事項であり続けています。

## 2 オランダ国民は幸せではない

新政権樹立を前に、オランダの「自国が間違った方向に向かっている」というスコアは現在79%で、物事が軌道から外れていると考えており、2022年10月に記録した悲観のピーク（82%）にほぼ達しています。

## 3 アルゼンチンは楽観的に

約4年間、アルゼンチンは一貫して最も悲観的な国でした。しかし、最近の選挙の結果、運命は変わり、国の進む方向について楽観的な人が悲観的な人を上回るようになってきました。

## 4 インドは正しい道を歩んでいる

インドは、自国が正しい方向に向かっていると答えた人の割合が5ポイント上昇してほぼ5分の3（78%）となり、今年最高を記録しています。

しかし、2023年1月以来初めて、失業が国の最大の懸念事項となっています。

## 5 米国のインフレ懸念は高まり続けている

米国のインフレに対する懸念は2023年4月以来の最高水準にあります。

現在、アメリカ国民の50%が、インフレが国が直面している重要な問題であると答えており、これは先月より5ポイント、年初より9ポイント上昇しています。

## 6 失業はもはやイタリア国民の最大の懸念事項ではない

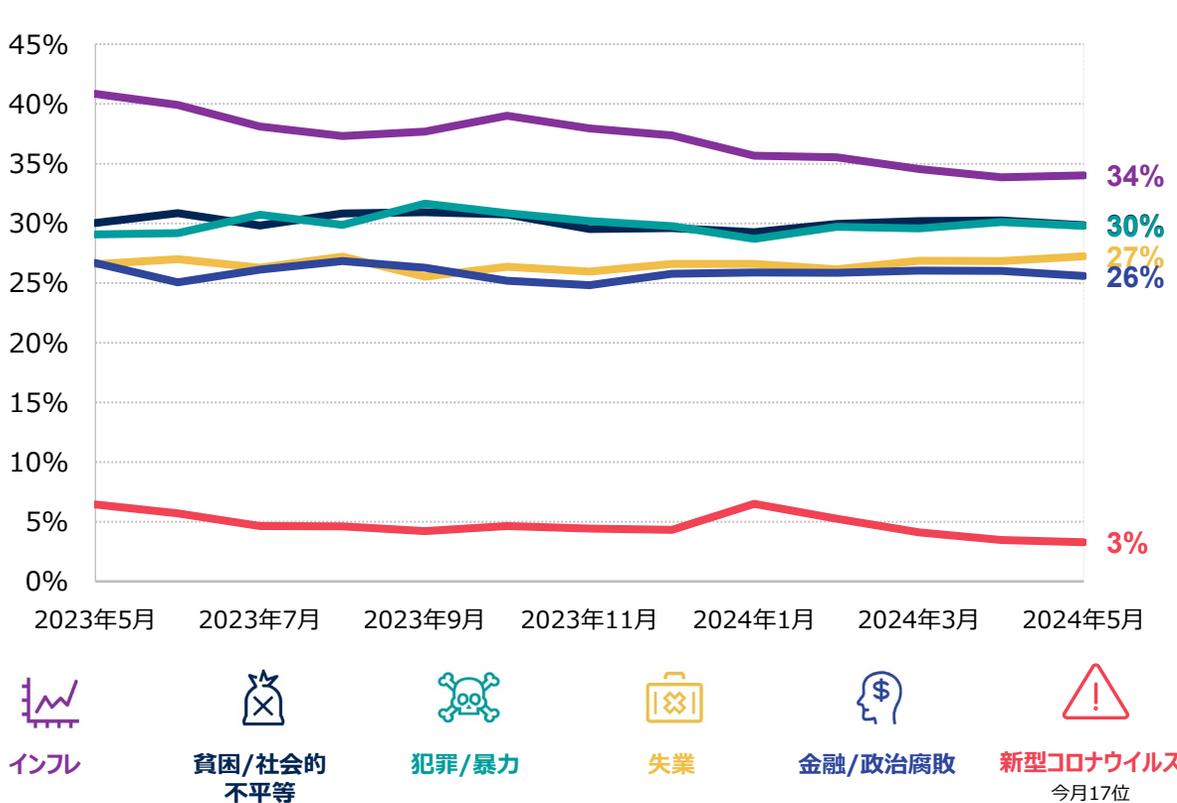
ほぼ10年ぶりに、イタリア国民にとって失業はもはや最大の問題ではなくなりました。

ヘルスケアが現在、懸念事項のトップに挙げられており、36%が回答しています。失業は依然として大きな問題で、34%が回答しています。

# 世界が懸念していること 12か月のトレンド

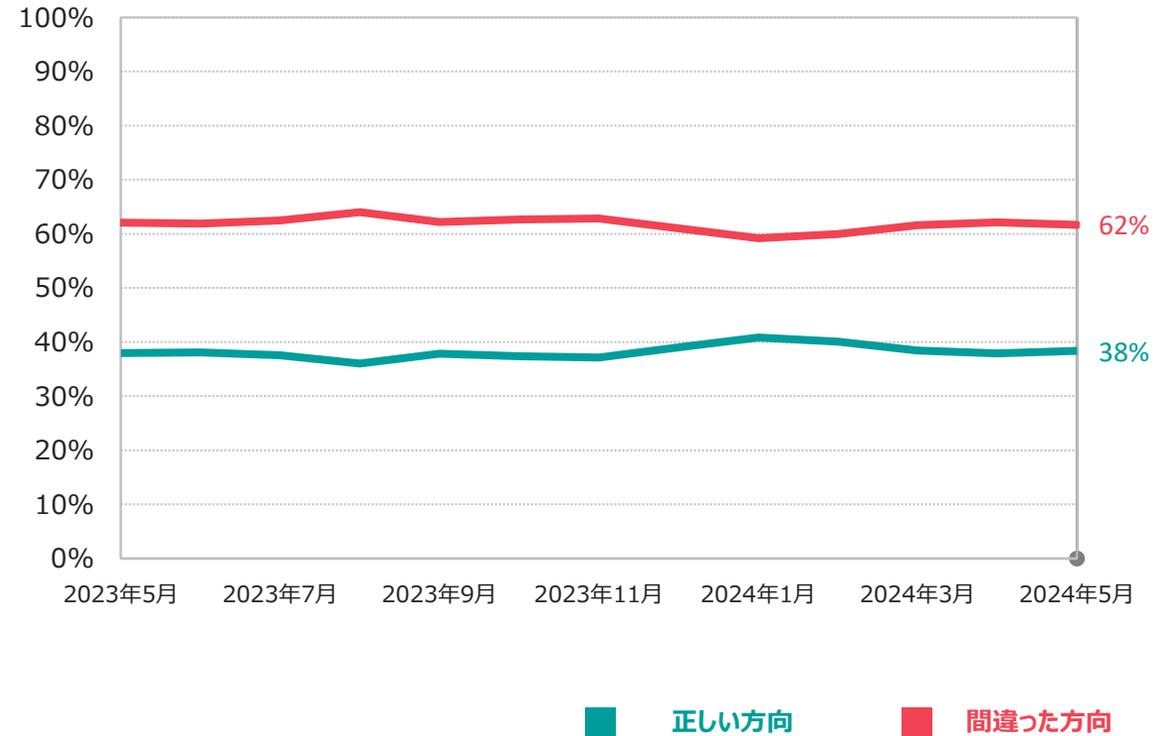
Q

次のうち、自国で最も懸念されている3つは何ですか？



Q

自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？

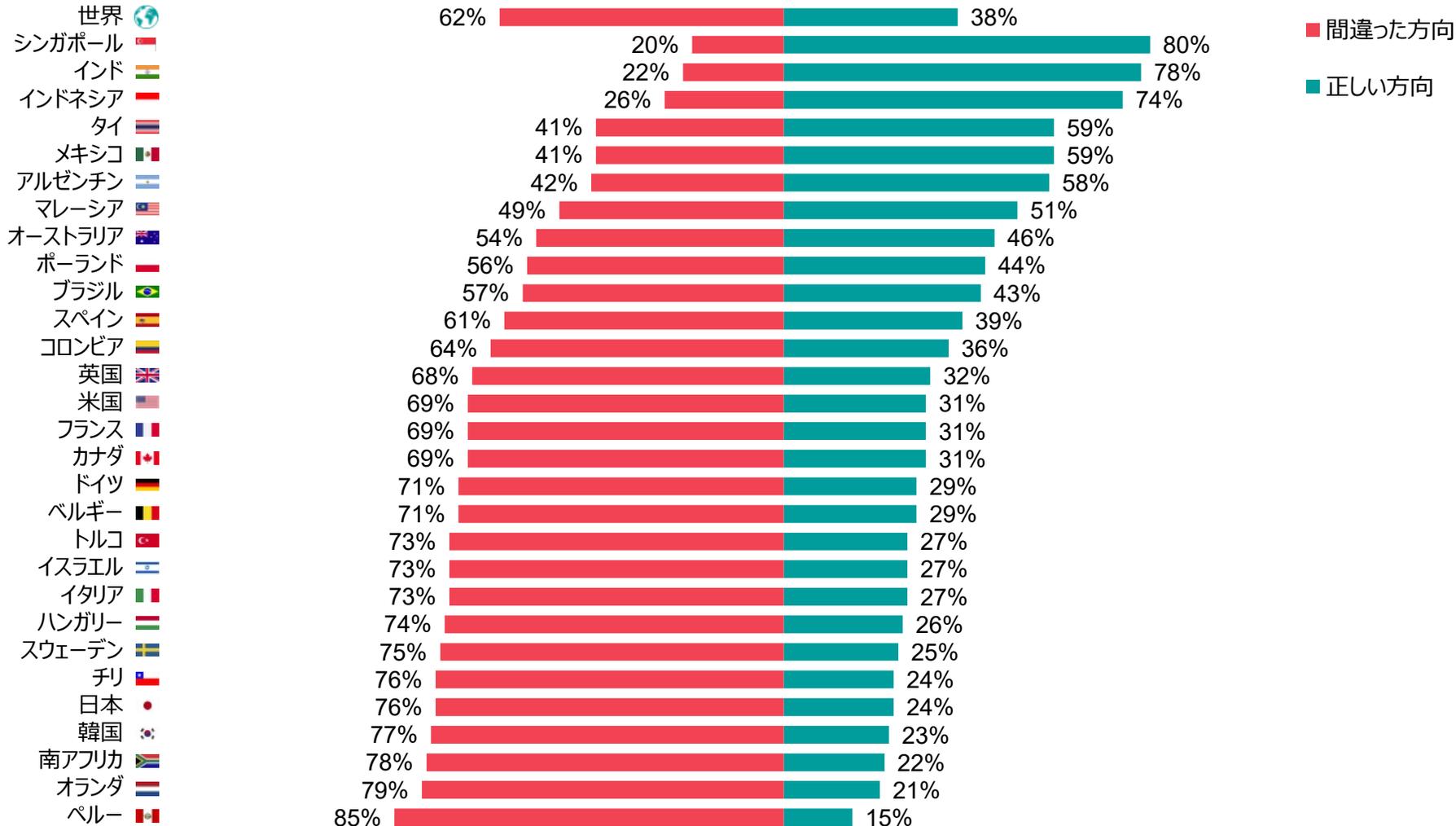


ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル約24,686人。2023年5月から2024年5月に調査。  
 出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 各国が進む方向性 全29カ国

# 正しい方向/間違った方向 モニター

Q 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？ (2024年5月)



29か国で4人弱（38%）が、自国は正しい方向に向かっていると考えています。これは前月から変わらず、今年初めより3ポイント低い結果となっています。

オランダは新政権の樹立を前に、自国が軌道から外れていると答えた人が5分の3（79%）となり、順位を落としています。これは、オランダが2022年10月に82%と高かったとき以来の最低スコアです。

チリとポーランドは、「自国が間違った方向へ進んでいる」スコアが1月以来最大の低下となり、どちらも13ポイント低下しています。

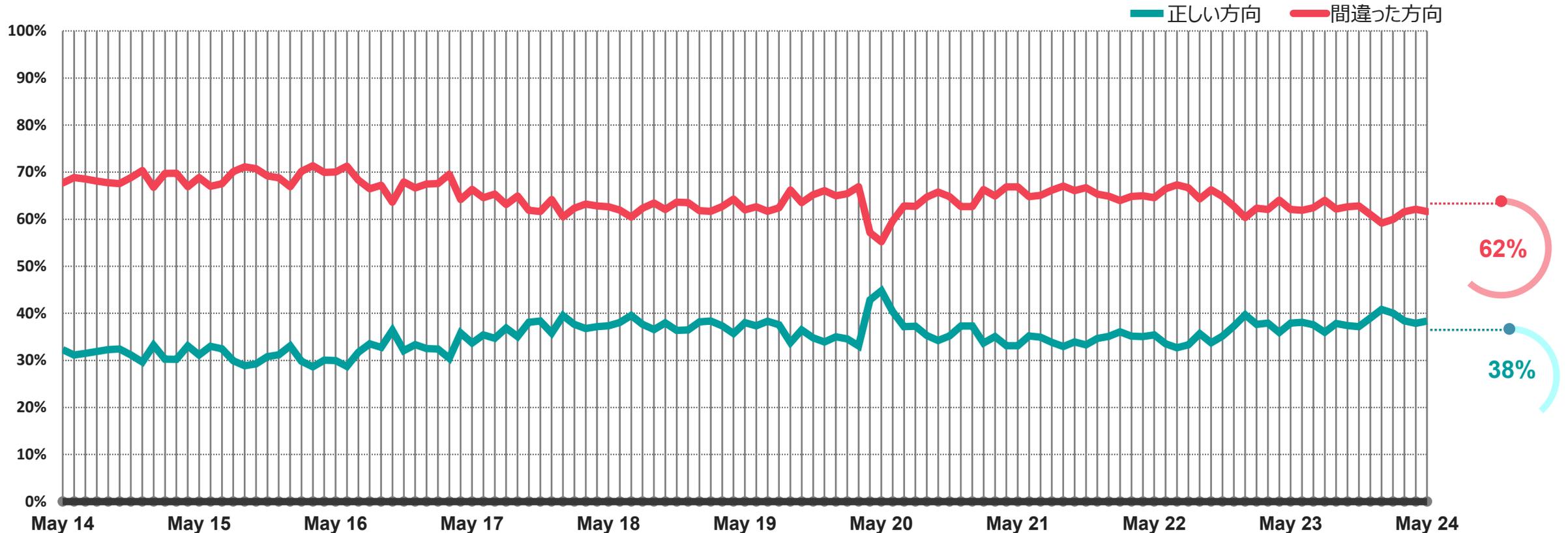
対照的に、インドは今年、「国が正しい方向に向かっている」と回答した人が5ポイント上昇、ほぼ5分の3（78%）となり、最高水準となっています。

ベース: 調査対象29か国の16~74歳の代表サンプル24,686人。2024年4月15日から2024年5月3日に調査。  
 出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
 Filter: Country: World | Current Wave: May 24



# 世界各国平均：正しい方向/間違った方向

**Q** 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？  
(世界各国平均)



ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル約24,686人。(2014年~2024年)

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

8 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: May 24



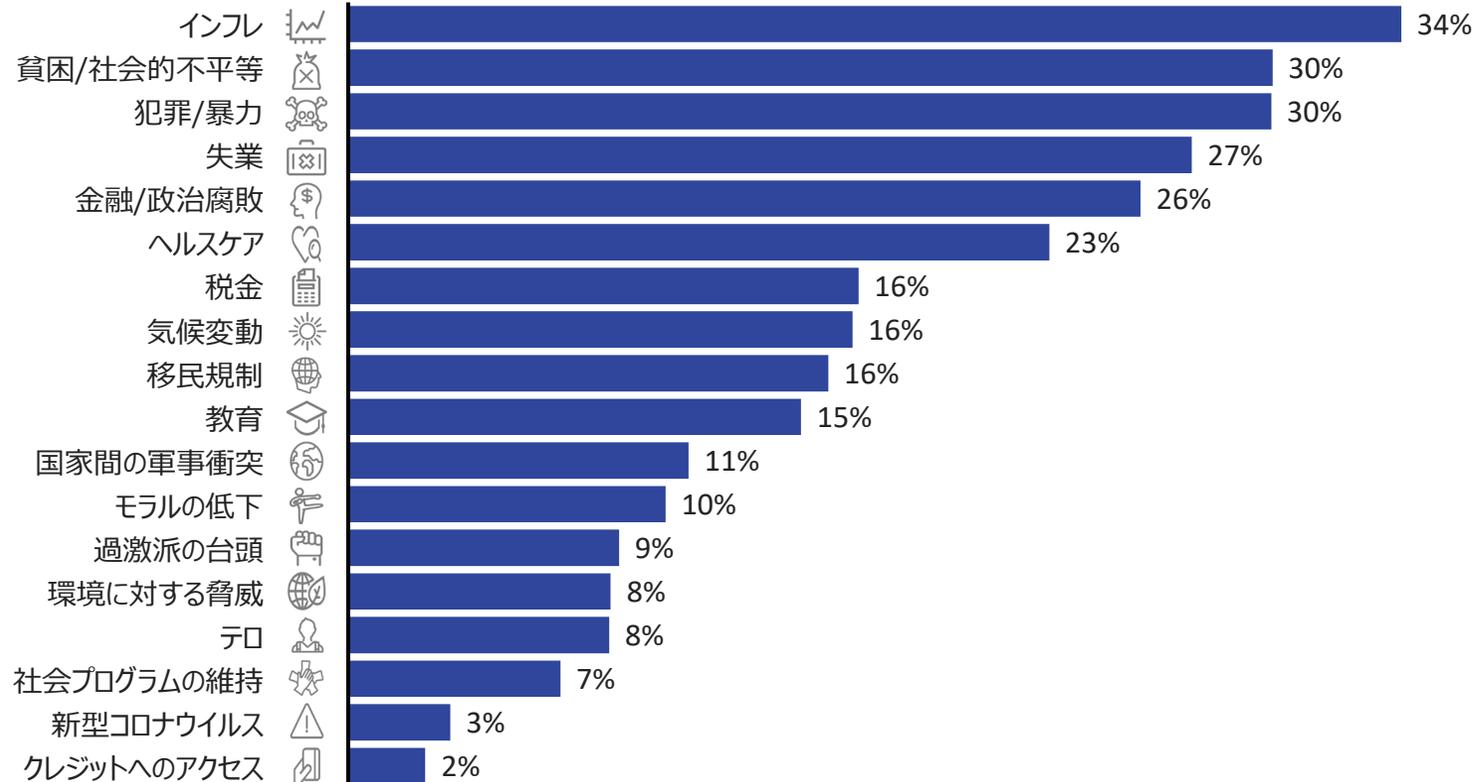
# 世界が懸念していること ランキング 上位の懸念



# 世界の懸念事項：全18項目リスト

**Q** 次のトピックのうち、あなたの国で最も懸念されていると思うものを3つ選んでください。

2024年5月の回答 世界各国平均(%)



インフレは今年初めに若干低下したものの、今月も変わらず、3分の1（34%）が懸念しています。これは2022年4月（32%）以来の最低値です。

上位5つの懸念事項の残りも同様の傾向を示しており、今月は変化がありません。

国家間の軍事衝突はわずかに増加していますが、教育とモラルの低下の間の11位となっています。

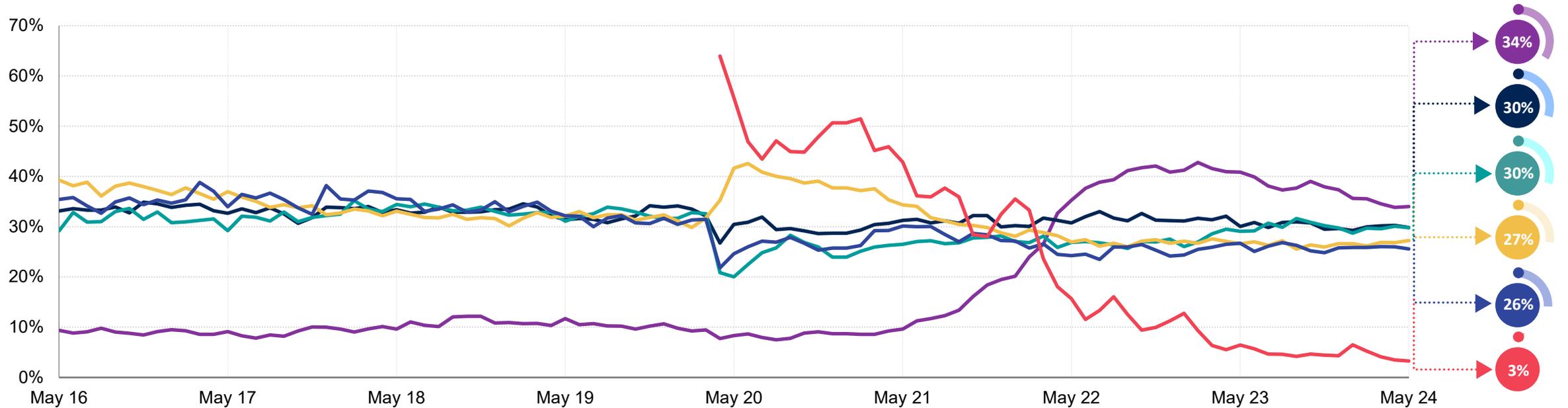
ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル24,686人。2024年4月15日から2024年5月3日に調査。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 世界の懸念事項：長期トレンド

**Q** 次のトピックのうち、あなたの国で最も懸念されていると思うものを3つ選んでください。

世界各国平均



インフレ

貧困/社会的不平等

犯罪/暴力

失業

金融/政治腐敗

新型コロナウイルス

ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル約24,686人。(2016年~2024年)

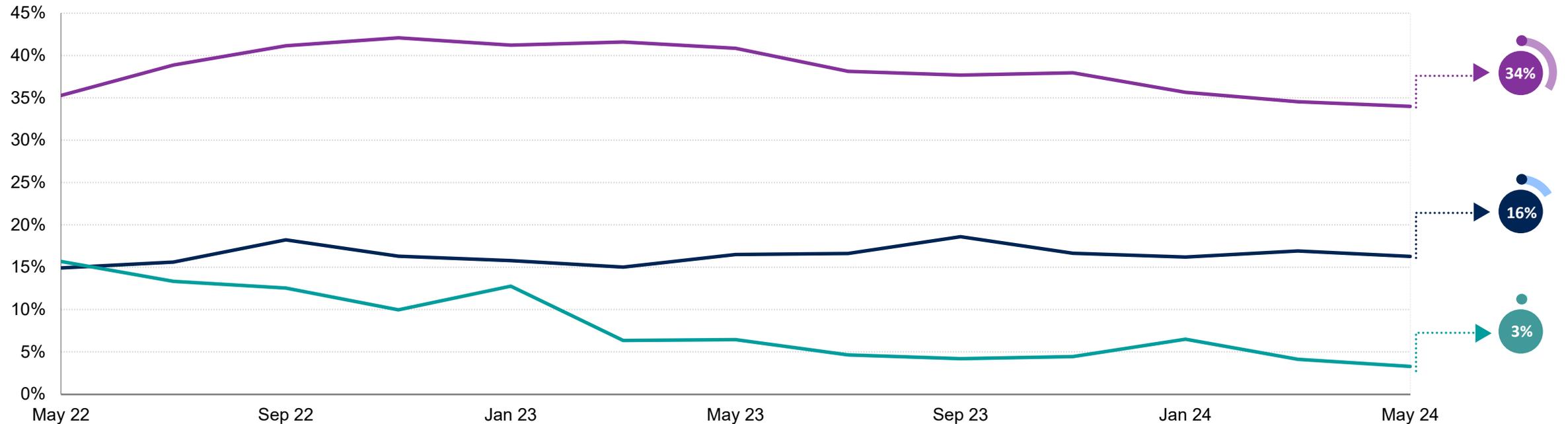
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

11 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: May 24



# 世界の懸念事項：長期トレンド (インフレ、気候変動、新型コロナウイルス)



インフレ

気候変動

新型コロナウイルス

ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル約24,686人。（2022年5月～2024年5月）

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

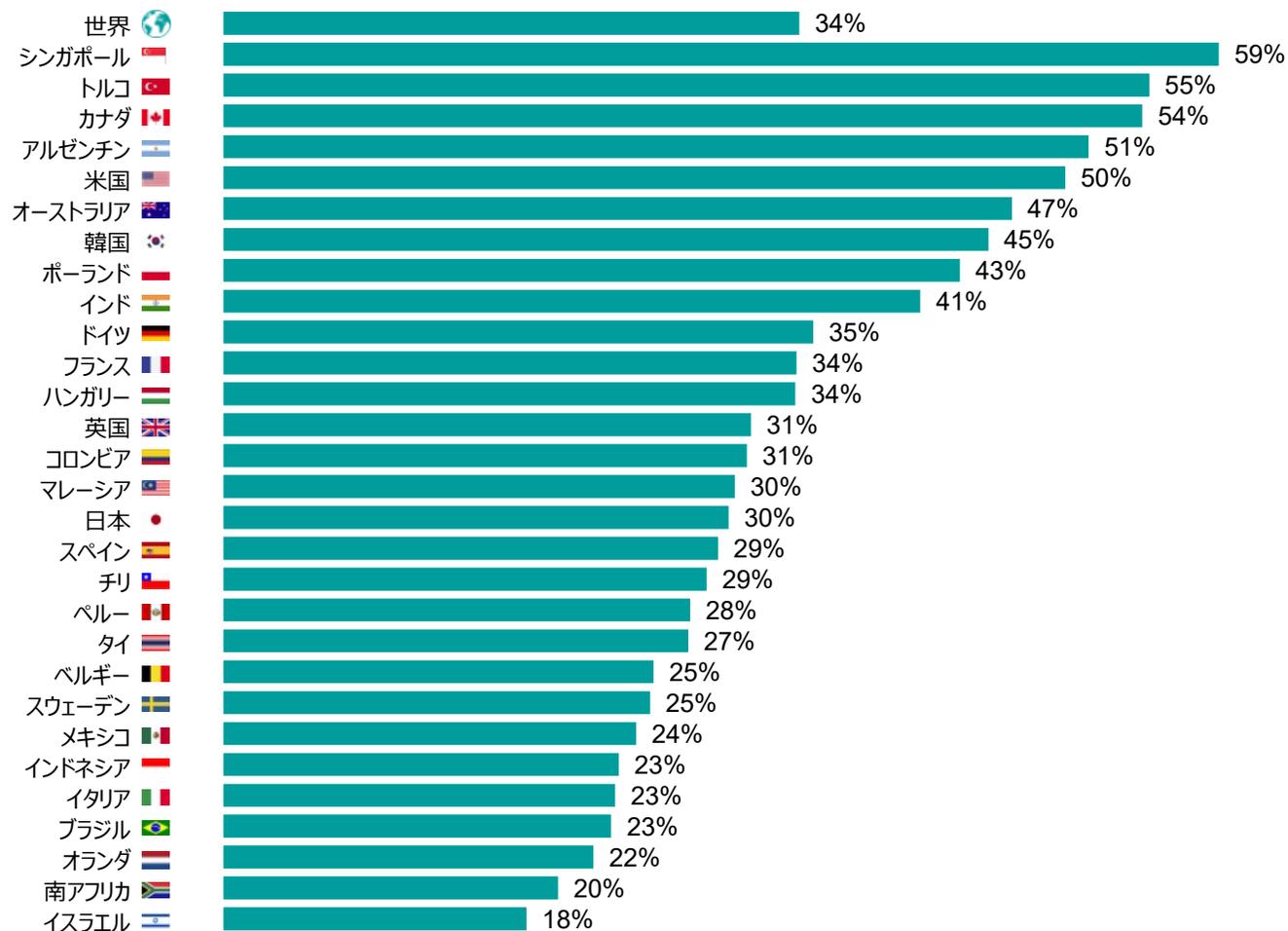
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。新型コロナウイルスは2020年4月に調査に導入。

12 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: May 24



# 1 | インフレ

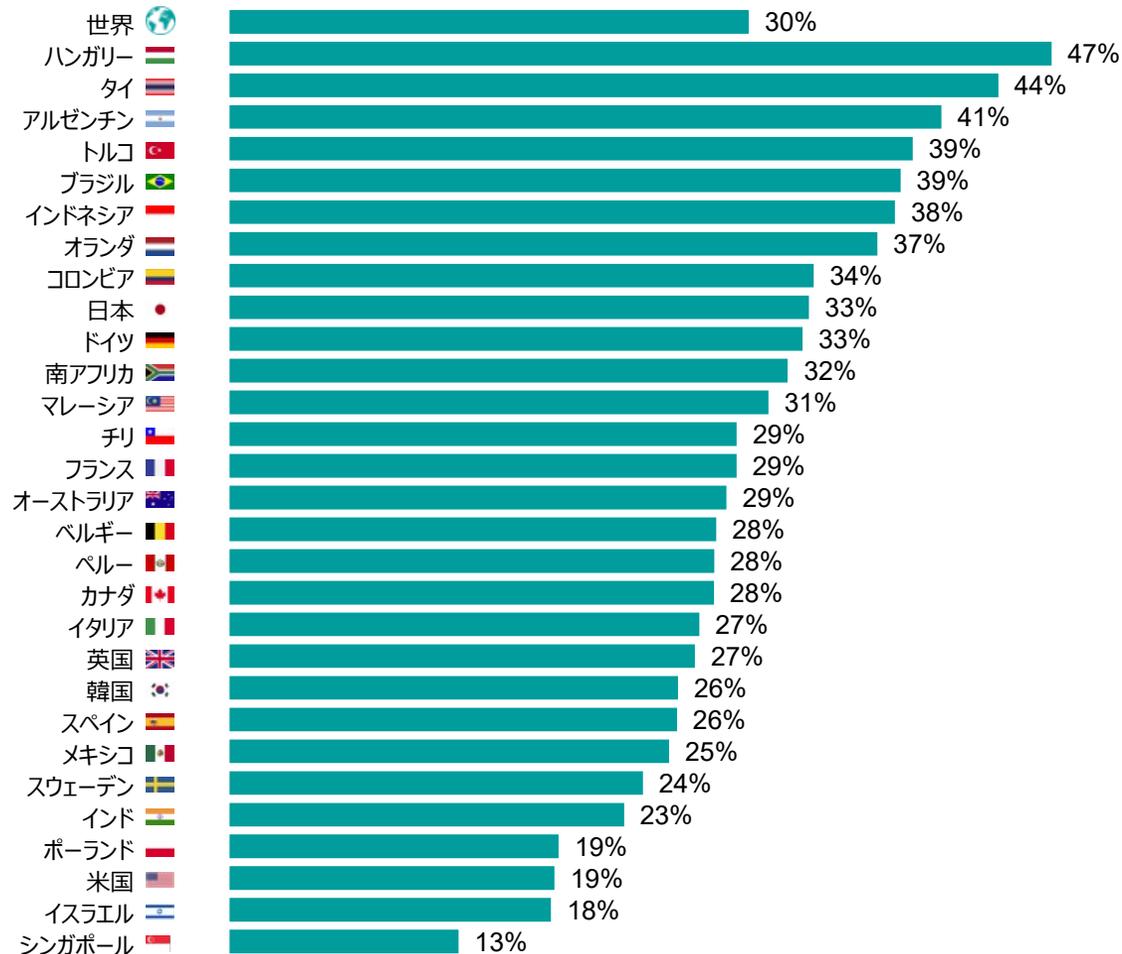


34%が、インフレが自国に影響を与える3つの最大の問題の一つであると答えており、これは先月から変化がありません。

2022年4月にインフレが本調査における主要課題となって以来、アルゼンチンは一貫して最も懸念する国としてトップの座を占めていましたが、2022年9月と10月にポーランドが最も懸念する国となった例外が2度ありました。しかし、今年5月には懸念が12ポイント急減し、懸念する人は半数強（51%）となり、アルゼンチンは4位となっています。

米国は先月から上昇を続けています。懸念を感じている人は半数（50%）で5ポイント上昇しています。これは今年1月より9ポイント高い結果です。

## 2 | 貧困/社会的不平等

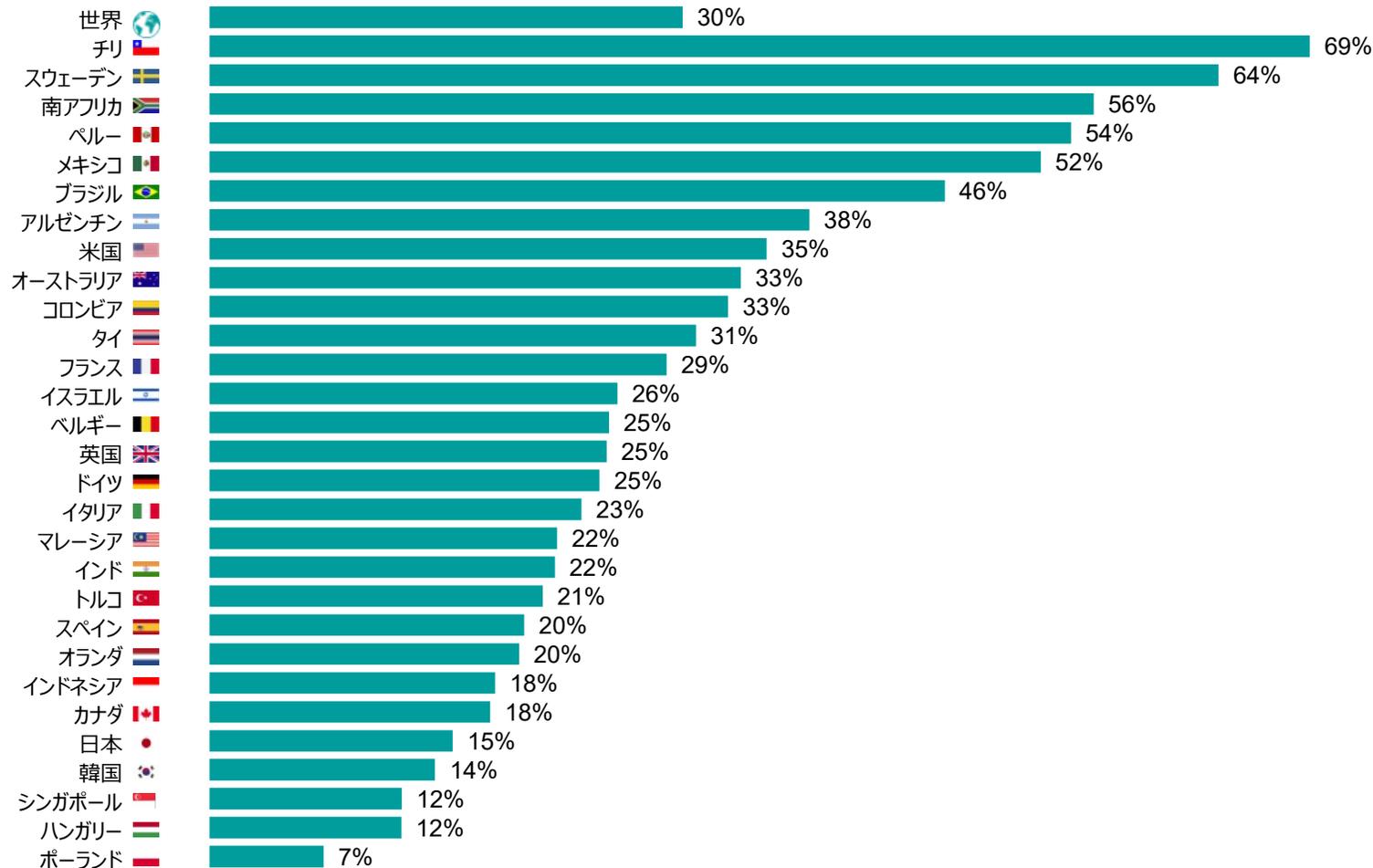


不平等を懸念事項として挙げる割合は今月も変化はありません（30%）。懸念のレベルはここ数カ月間ほぼ安定しており、2023年5月以降、一貫して10人中3人が懸念していると記録されています。

世界レベルでは安定しているものの、国レベルでは変化が見られます。ハンガリーは、約半数（47%）が回答し、今月は7ポイントの上昇、現在トップとなっています。これは2024年2月と同じレベルです。

一方、アジア太平洋地域では、これまで首位だったインドネシアが10ポイント減少し、5分の2弱（38%）となっています。同様に、シンガポールは11ポイント低下してリストの最下位となり、懸念はわずか13%となっています。

# 3 | 犯罪/暴力



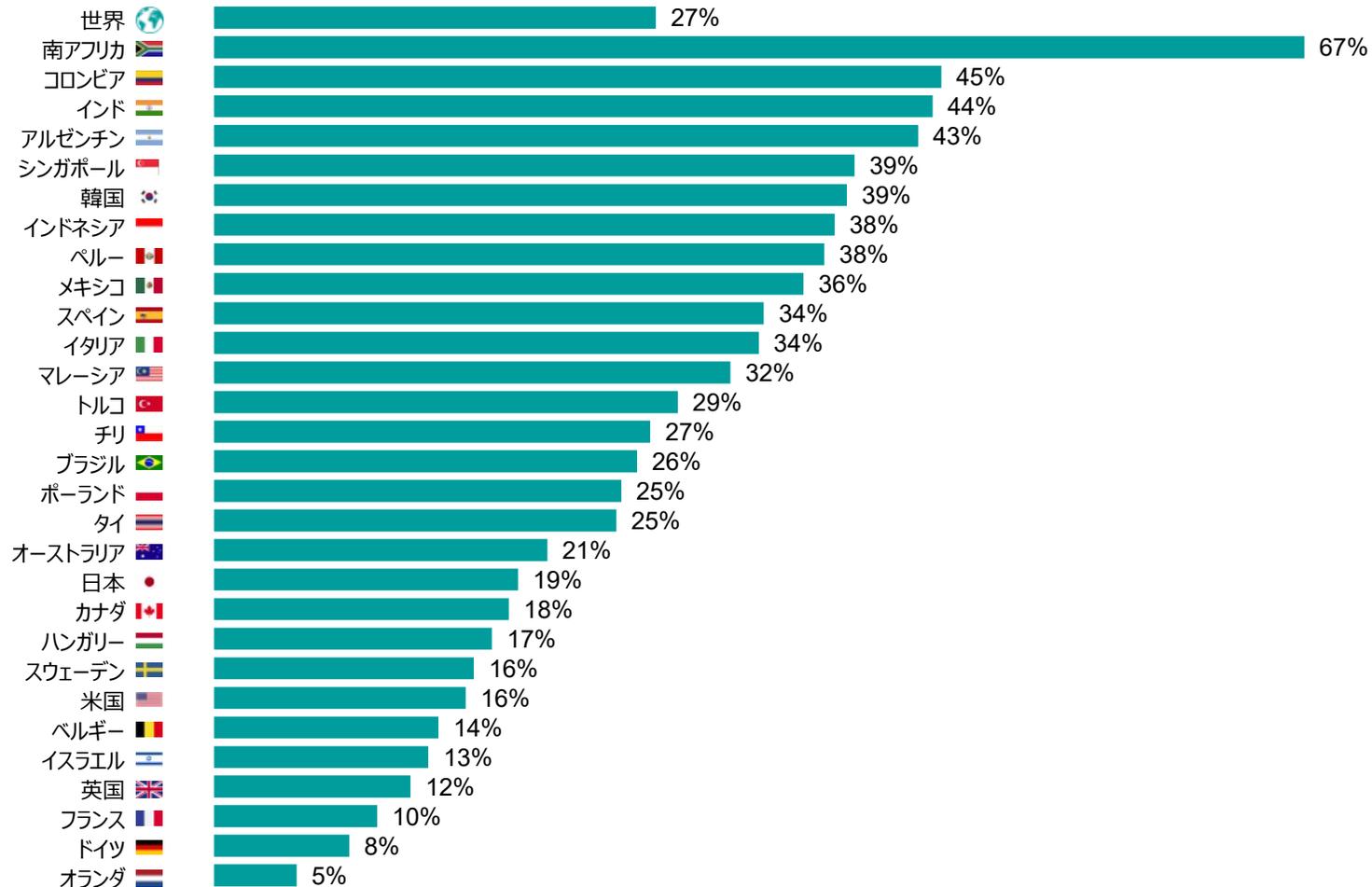
10人中3人（30%）が自国における犯罪/暴力を懸念事項として挙げており、これは先月から変化はありません。

今月最も懸念しているのはチリで、懸念は4月から3ポイント上昇しています。チリは過去最高レベルの69%に戻っています。2024年2月も同スコアでした。

ブラジルの懸念レベルはここ5年で最高となっています。ブラジルでは5ポイント上昇して46%となり、2019年4月の49%以来、このような水準には達していませんでした。

ただし、この傾向はラテンアメリカ全体に当てはまるわけではありません。ペルーは9ポイント低下して54%、メキシコは6ポイント低下して52%となっています。しかしながら、これは依然としてこの2カ国における最大の懸念事項です。

# 4 | 失業



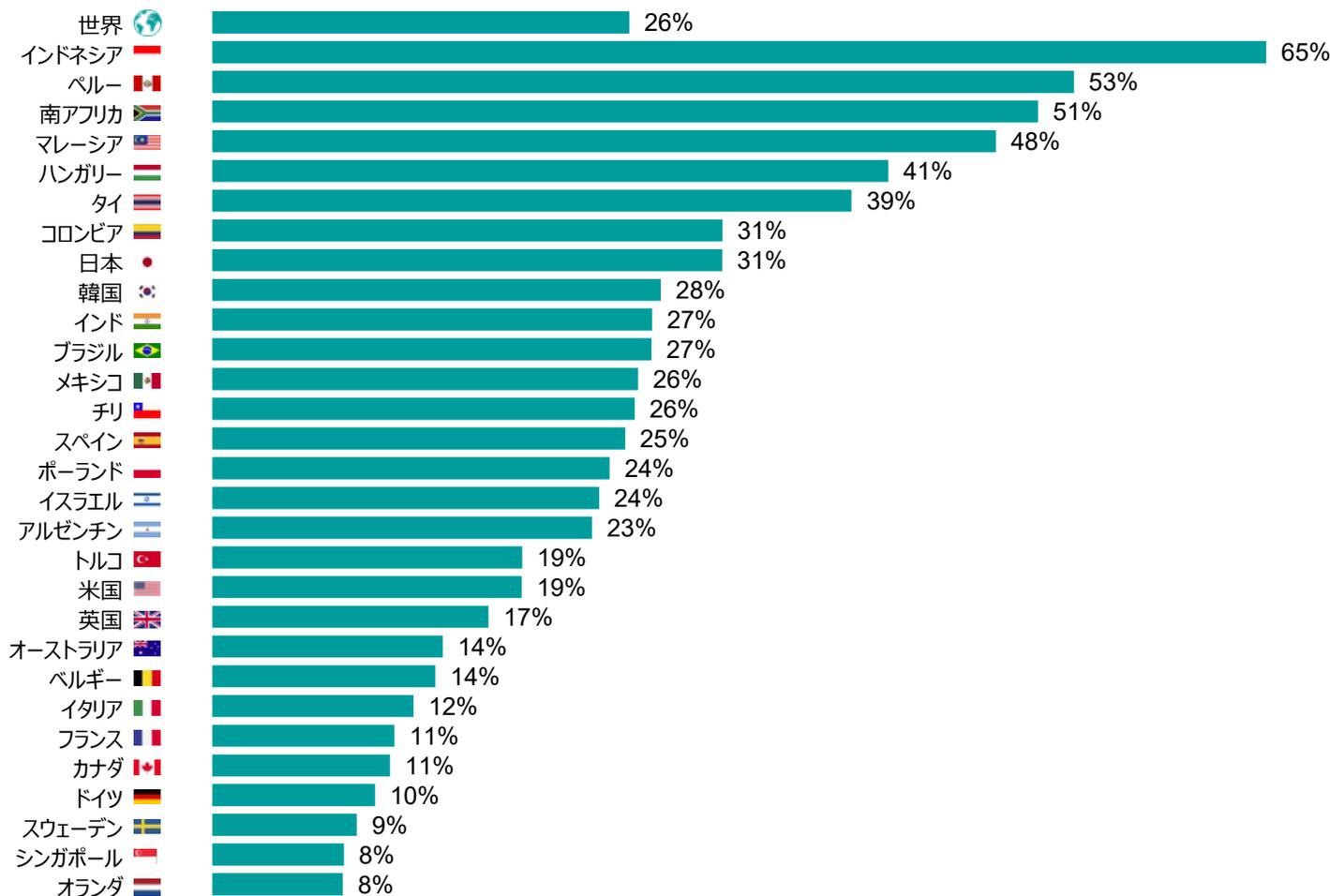
今月は4分の1強（27%）が失業を懸念事項として選択しており、先月から変化はありません。

今月は注目すべきポイントがいくつかありました。ほぼ10年ぶりに、イタリアにとって失業がもはや最大の懸念事項ではなくなっています。それでも、34%で、ヘルスケア（36%）にのみ超されています。

失業を最大の懸念事項として挙げている国々のうち、南アフリカは67%で横ばいのままで、わずかに増加しています。コロンビア（45%）はわずかに上昇しており、2024年2月以降、8ポイント増加しています。インドでは、2023年1月以来初めて、失業に関する懸念が最高となり、7ポイント上昇し44%となっています。スペインは例外で、6ポイント低下して3分の1強（34%）となっています。

ポーランドの失業への懸念は4年ぶりの高水準となり、13ポイント上昇して25%となっています。

# 5 | 金融/政治腐敗



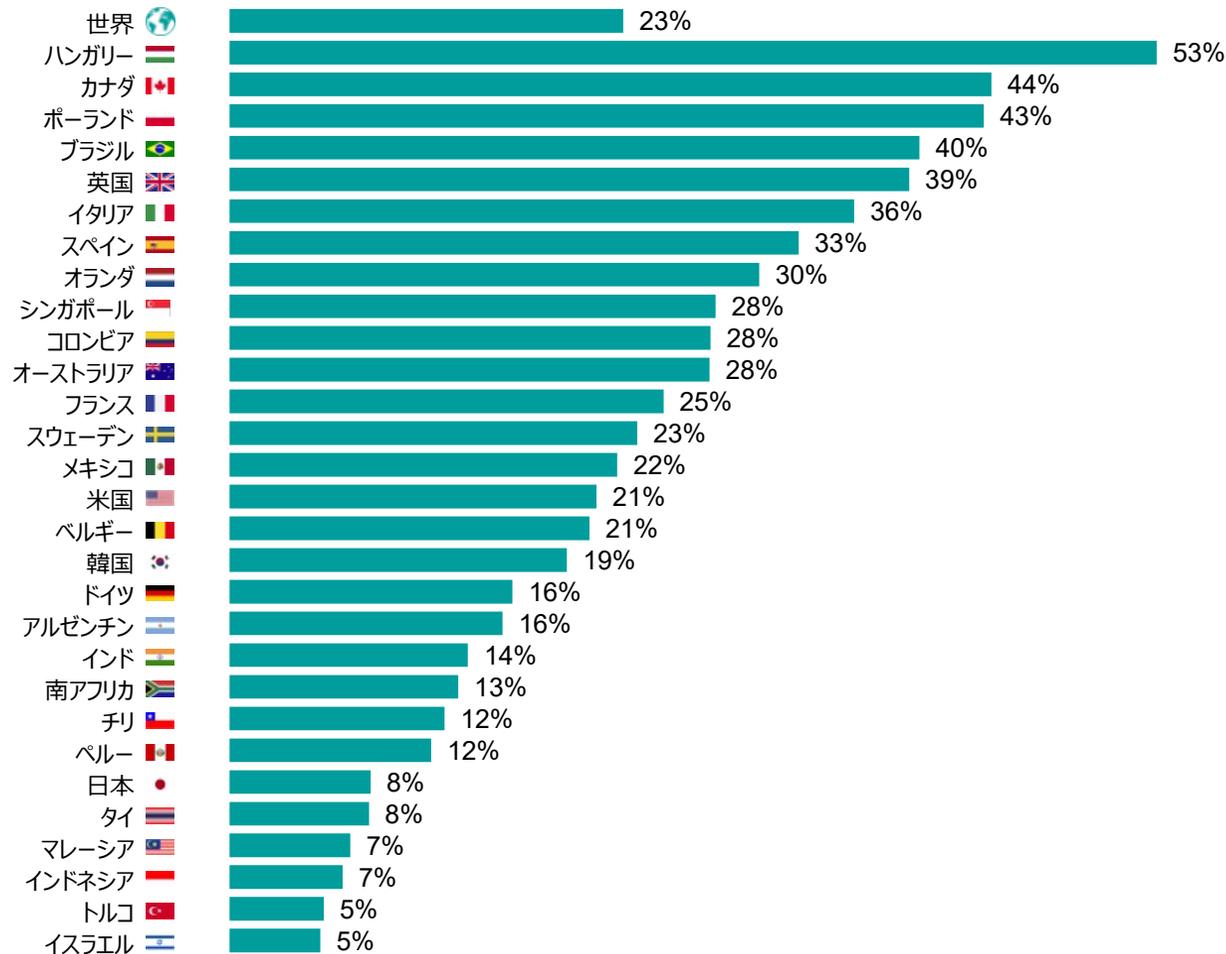
29か国で4分の1（26%）が自国における金融/政治腐敗を懸念事項として挙げており、先月から変化はありません。

インドネシアは依然として汚職を最も懸念しており、さらに8ポイント上昇して65%となっています。これは、2022年8月に記録を開始して以来、インドネシアの最高スコアです。マレーシア（48%）もこれを最大の懸念事項としており、4ポイント上昇しています。

日本では先月、汚職が最大の問題となりましたが、懸念は6ポイント低下して31%となっています。ただし、参考までに、昨年の同時期のスコアは12%でした。

一方、チリでは、汚職を懸念する人が9ポイント減少し、4分の1（26%）となっています。

# 6 | ヘルスケア



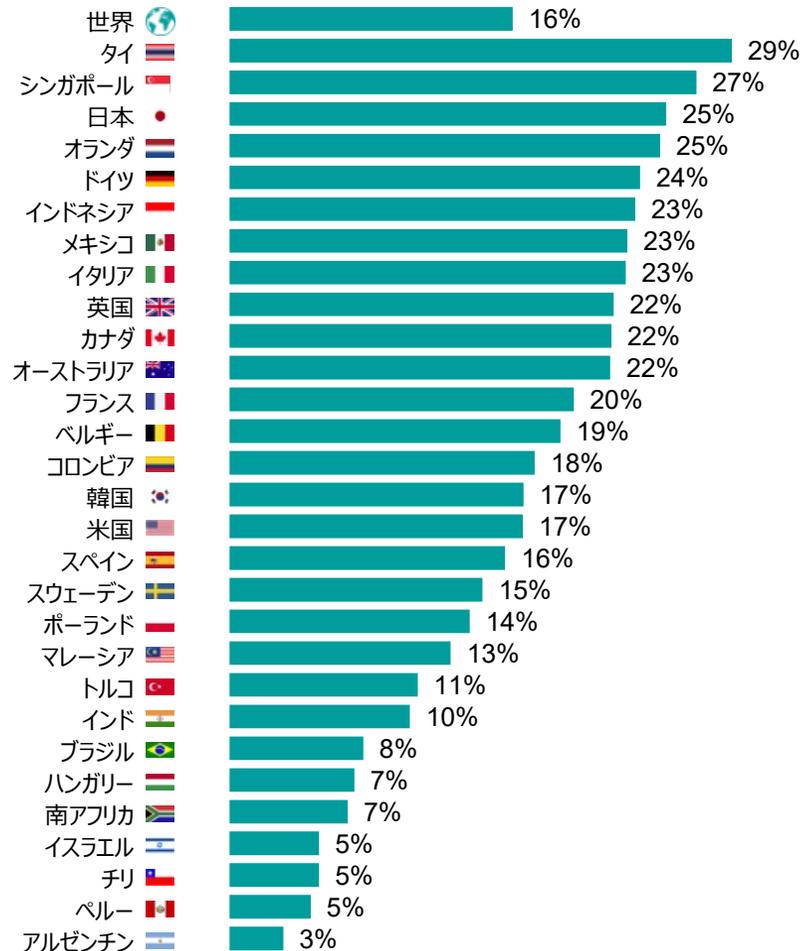
ヘルスケアを問題として挙げた人の割合は4分の1弱（23%）で、先月と比べて変化はありません。

ハンガリーは一貫してヘルスケアを最重要課題としており、今月も例外ではありません。しかし、今月ヘルスケアの回答は、2024年4月と比較して12ポイント減少しています。

イタリアのスコアは2023年9月以降着実に上昇しており、初めてヘルスケアを最大の懸念事項に挙げています。今月の懸念は4ポイント上昇し、3分の1（32%）が懸念を表明しています。これは、イタリアにとって過去10年間で最も高いレベルのヘルスケアに対する懸念です。

英国もヘルスケアを最重要課題として挙げています。ただし、5分の2（39%）へとわずかに減少しています。

# 8 | 気候変動



29カ国全体で気候変動に回答した割合は16%で、先月からわずかに減少しています。

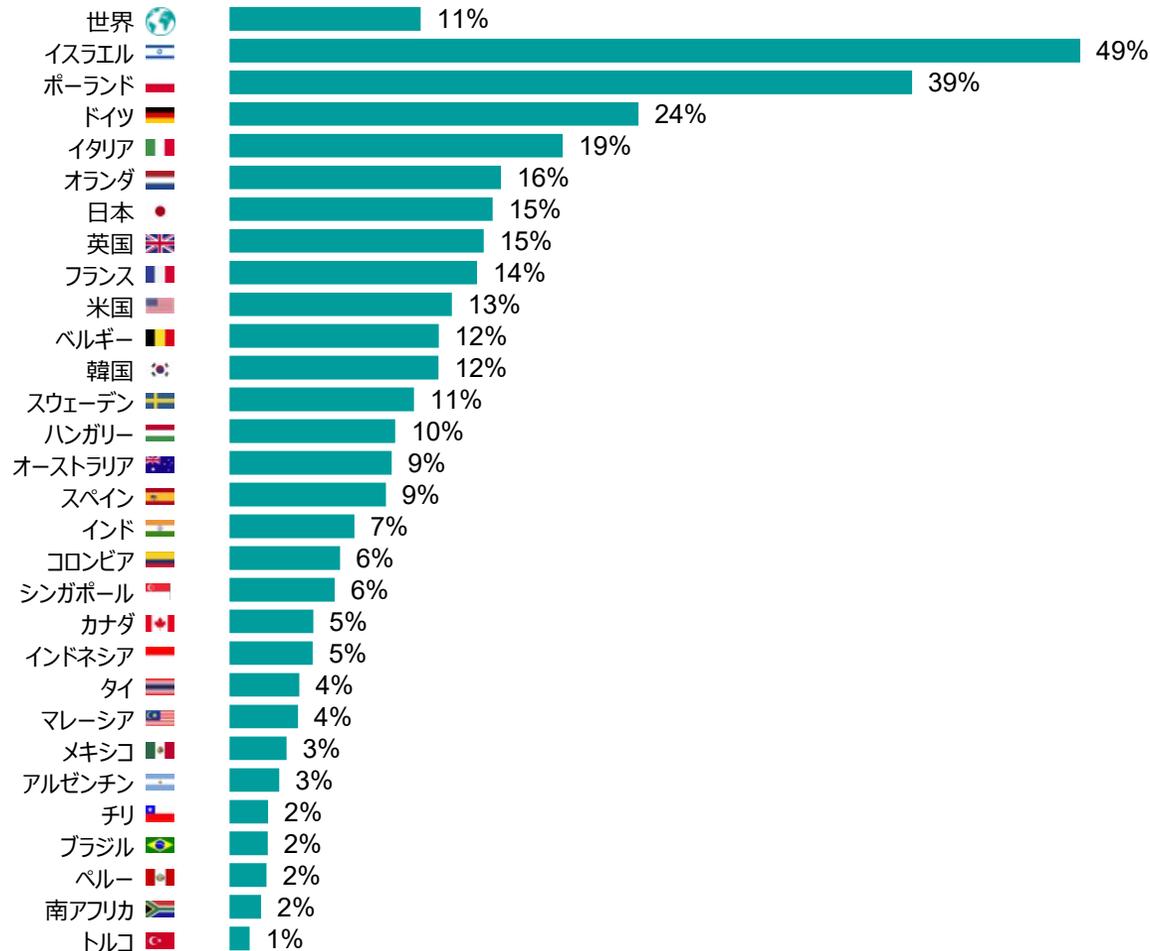
タイは現在、気候変動に関するリストでトップの国です。これを回答したタイ国民の割合は4月から6ポイント増加し、10人中3人（29%）となっています。

対照的に、先月トップだったシンガポールは6ポイント低下し、4分の1強（27%）となっています。

2024年1月のブラジルのスコアは、同国で記録された最高スコアでした。しかし、今月はさらに減少し、4ポイント減、10人に1人をわずかに下回るスコア（8%）となっています。

ブラジルとは異なり、コロンビアは順位を上げており、8ポイント増加して18%となっています。

# 11 | 国家間の軍事衝突



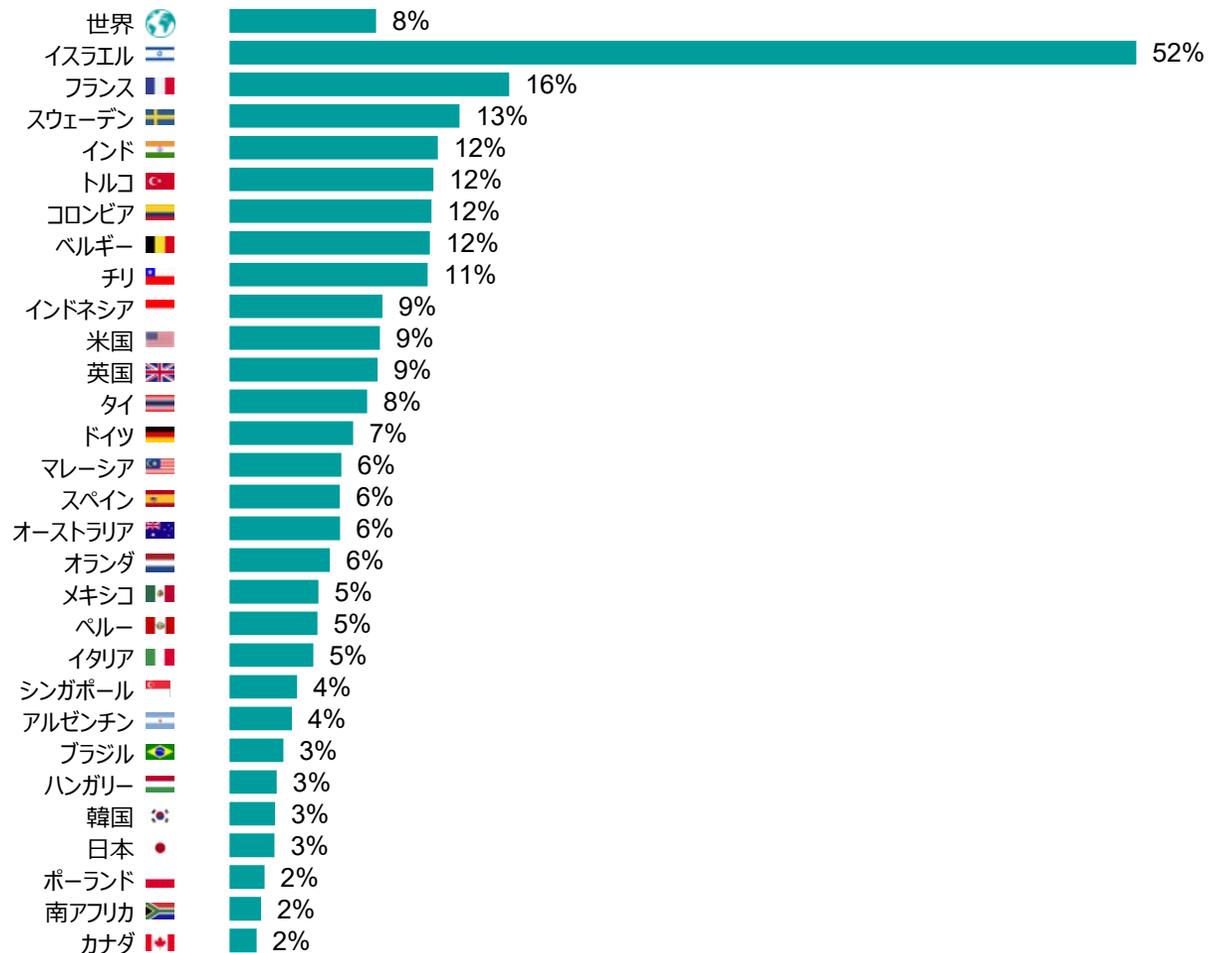
10人に1人（11%）が国家間の軍事衝突を選択しており、先月からわずかに増加しています。

イスラエルのスコアは、この問題に関する私たちの調査の中で、どの国よりも高いレベルに達しています。今月は10ポイントの大幅上昇となり、国民の半数（49%）が軍事衝突を選択しています。2023年10月以降、これを回答するイスラエル国民の割合は33ポイント増加しています。

ヨーロッパでは、不安が少しずつ増加していることがわかります。ポーランドでの懸念は依然として高く、わずかに減少して39%となっています。イタリアとドイツはともにわずかに増加しています（それぞれ19%と24%）。

ハンガリーの回答はヨーロッパで最も増加しており、4ポイント増加して10人に1人（10%）となっています。2024年3月には4%でした。

# 15 | テロ

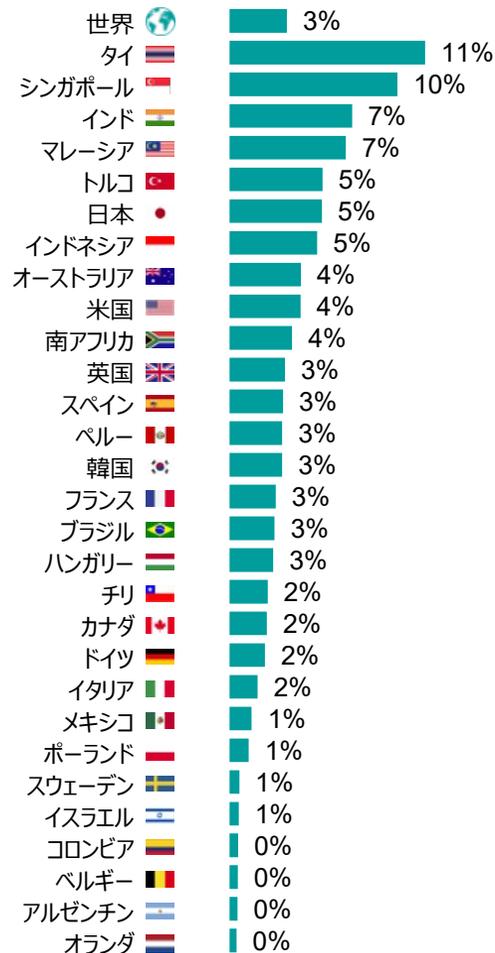


テロに関する回答は、2023年11月の12%のピーク以来、減少しています。今月は少し減っています。

イスラエルは依然として圧倒的に最も懸念している国です。今月は懸念のレベルがわずかに上昇し、依然として半数以上（52%）が懸念事項として挙げている状況です。これは国家の最大の懸念事項でもあります。

フランスは今月最大の変化を経験しています。先月のスコアは今年最高でしたが、その後テロを懸念事項として挙げる割合は、9ポイント低下して16%となっています。

# 17 | 新型コロナウイルス（COVID-19）



世界中で新型コロナウイルスに回答する割合は、追跡を開始した2020年4月以来、依然として最低レベルの3%です。4年前、新型コロナウイルス感染症に対する世界の懸念は64%でした。これは2%が懸念しているクレジットへのアクセスのすぐ上に位置しています。

インドは、今月回答が6ポイント減少し、スコアがわずかに7%となったため、もはや最も懸念する国ではありません。

顕著な増加がみられたのはシンガポールのみです。今月は4ポイント上昇し、10人に1人（10%）となっています。

# 経済への注目

# 自国の経済状況

イプソスの「世界が懸念していること調査(What Worries the World)」と並び、毎月実施されている「世界消費者信頼感調査」は、29カ国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

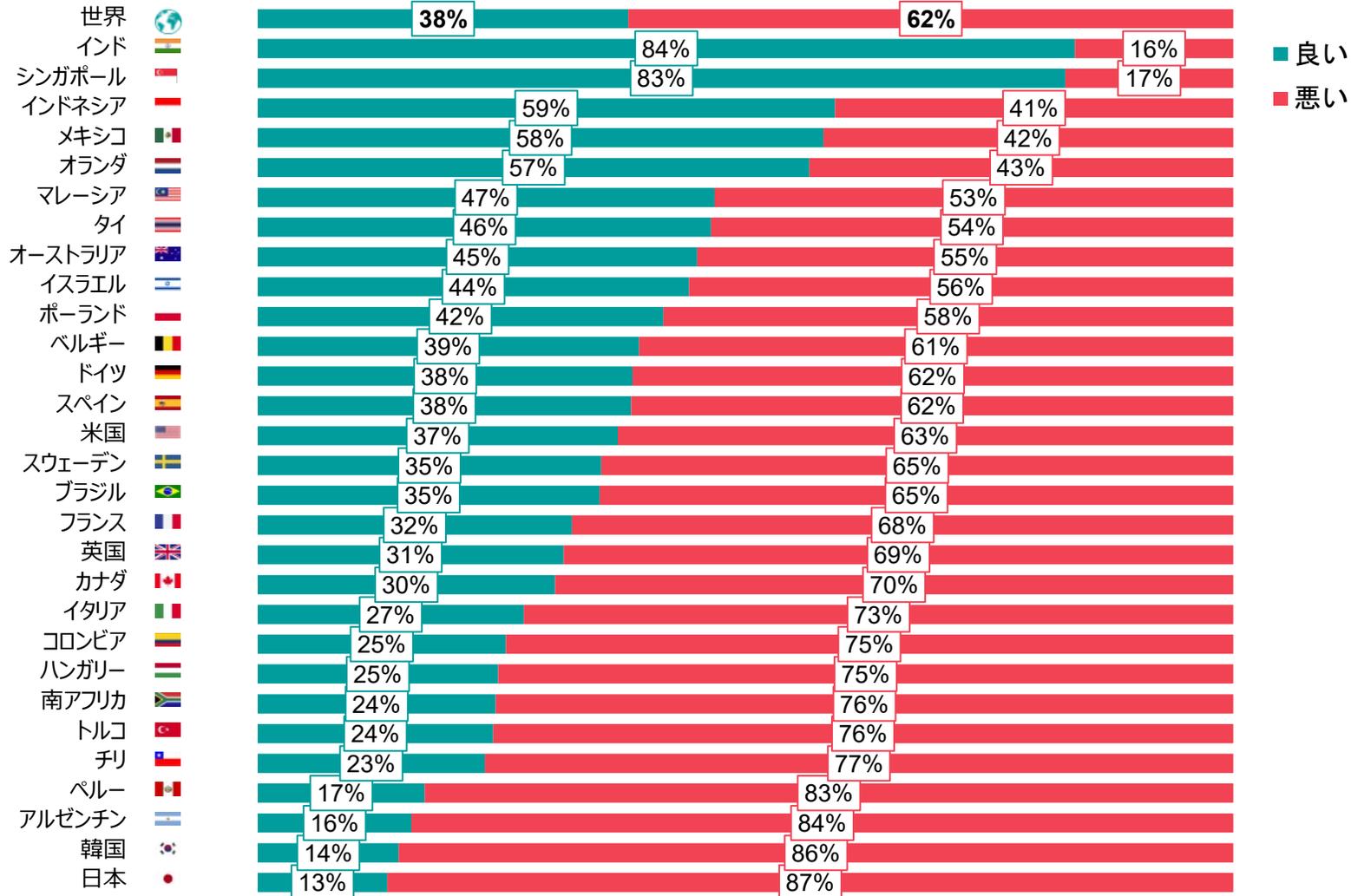
詳しくは [Emilios.Louca@ipsos.com](mailto:Emilios.Louca@ipsos.com) までお問い合わせください。



# 現在の経済状況

経済に関する認識の詳細については、[イプソスグローバル消費者信頼感調査](#)をご確認ください。

## Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？



29カ国平均では、自国の現在の経済状況が良いと回答した人は38%で、先月から変化はありません。

インドとシンガポールは引き続きトップの座を維持しており、10人中8人以上が自国の現在の経済状況は良好だと答えています。

アルゼンチンは1年以上も最下位に沈んでいましたが、今月は順位を2つ上げています。5ポイント上昇し、2020年5月以来の最高のスコア（16%）を記録しています。

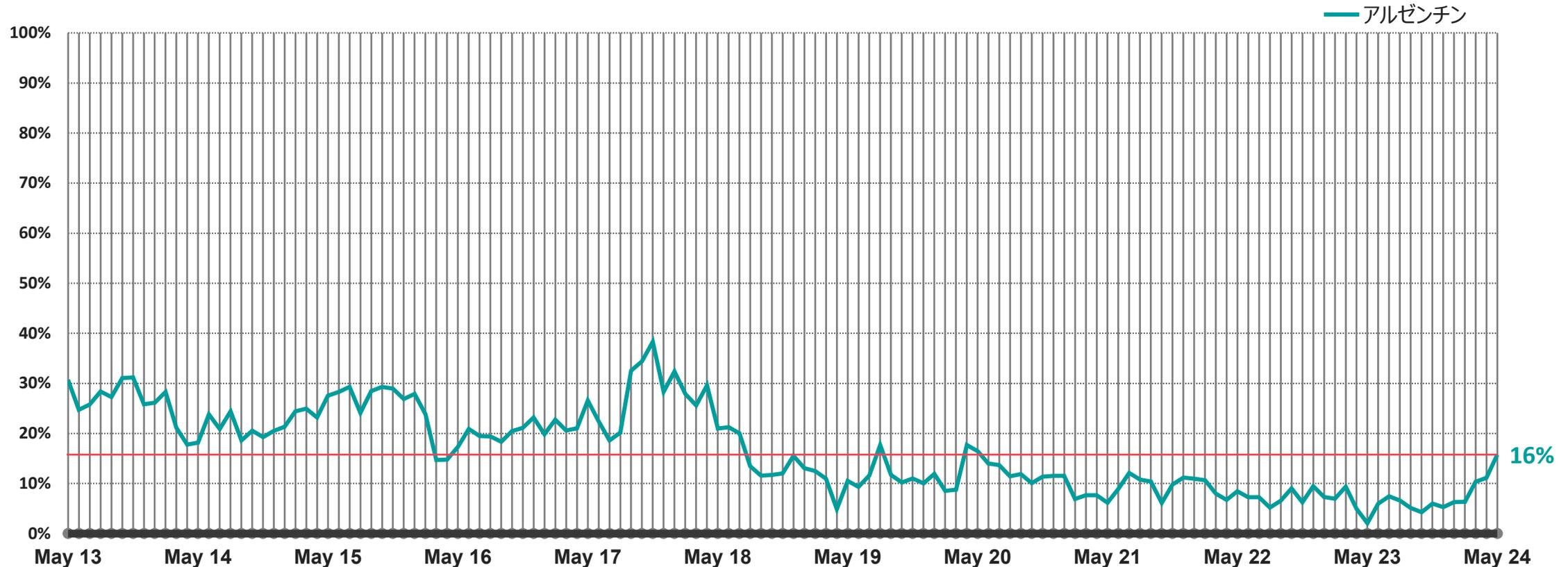
フランスは前月比最大の増加となり、2024年4月から11ポイント上昇しています。一方、シンガポール（8ポイント増、83%）とメキシコ（5ポイント増、58%）はともに過去最高の好景気スコアを記録しています。

今月、経済に対するポジティブな回答が最も低下したのは、タイ（8ポイント減）とチリ（7ポイント減）です。

# 現在の経済状況：アルゼンチン

アルゼンチンの「良い経済」スコアは前月比5ポイント上昇し、2020年5月（同じく16%）以来の最高スコアを記録している。

**Q** 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？  
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）



ベース：アルゼンチンの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。  
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

26 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: May 24



# 現在の経済状況：フランス

フランスの「良い経済」スコアは前月より11ポイント上昇し、2022年8月（同じく32%）以来の最高スコアを記録している。

**Q** 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？  
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）



ベース：フランスの16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

27 © Ipsos | 世界が懸念していること

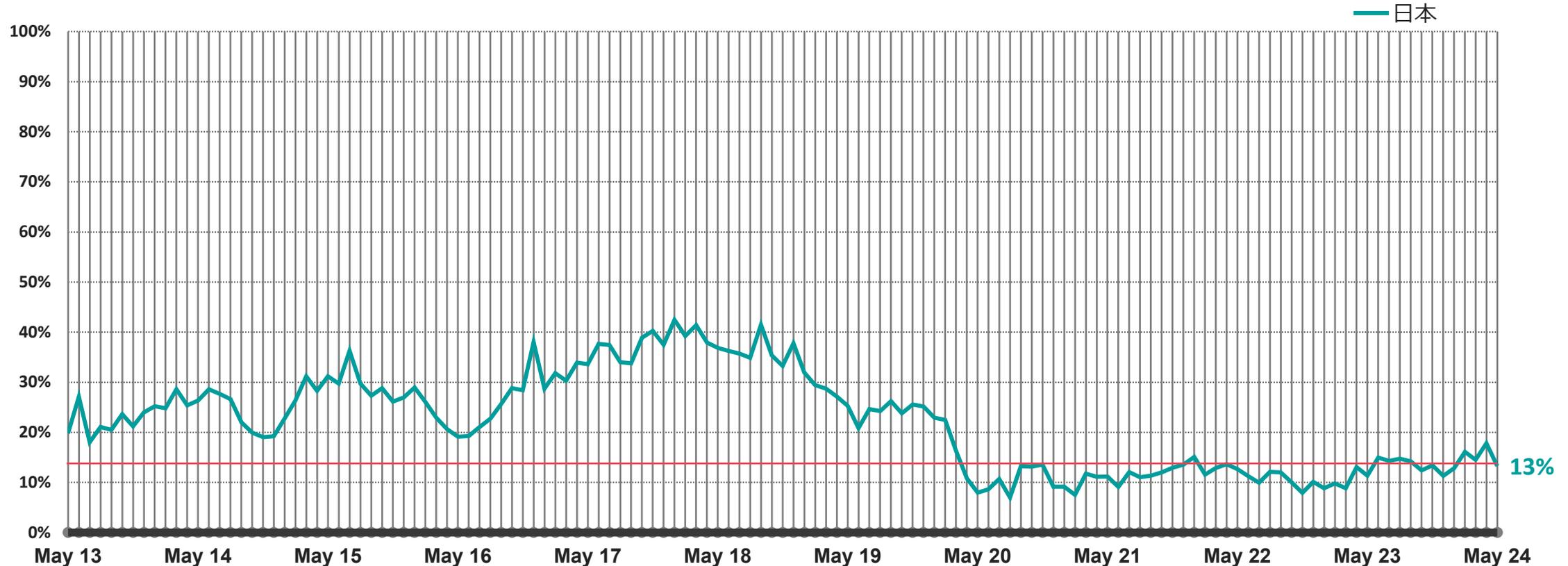
Filter: Country: World | Current Wave: May 24



# 現在の経済状況：日本

日本の「良い経済」スコアは4年以上20%以上に達していない  
(2020年2月は22%)。

**Q** 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？  
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：日本の16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

28 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: May 24

# 現在の経済状況：メキシコ

今月はメキシコの「良い経済」スコアが先月より5ポイント上昇し、過去最高を記録している。

**Q** 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？  
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：メキシコの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: May 24



# 調査方法

この29カ国のグローバルアドバイザー調査は、2024年4月15日から2024年5月3日にかけて、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、インドネシアとタイの20～74歳、シンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳の成人24,686人を対象に、イプソスのオンライン調査プラットフォームで実施された。

「世界各国平均」は、調査を実施したすべての国の平均値である。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、総合的な結果を示すものではない。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、日本、スペイン、スウェーデン、米国の各1,000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各500人以上からなる。インドのサンプルは約2,200人で、そのうち約1,800人が対面調査、約400人がオンライン調査を受けている。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、その国の75歳未満の一般人口を代表しているとみなすことができる。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口に比べて、より都市部に住み、教育水準が高く、裕福である。これらの市場の調査結果は、人口のうち、より「コネクテッド」な層の意見を反映していると言えるだろう。

インドのサンプルは、社会経済クラスA、B、Cと、国内の4つのゾーンにまたがる都市階級ティア1～3という、都市人口の大きなサブセットを代表している。

人口統計のバランスをとり、サンプル構成が最新の国勢調査データを反映した成人人口の構成比になるよう、ウェイト付けが行われている。

イプソスのオンライン調査の精度は、1,000人の世論調査は±3.5パーセントポイント、500人の世論調査の場合は±5.0パーセントポイントの信頼区間を用いて計算されている。イプソスの信頼区間の使用に関する詳細は、イプソスのウェブサイトを参照のこと。

パーセンテージの合計が100にならない場合、または「差」が実際より+/-1多いまたは少なく見える場合は、四捨五入、複数回答、「わからない」または未回答の除外による可能性がある。

本調査結果の公表は、現地の規則に従う。